

竹橋書齋

漫錄

三	四	五	和書門
二	四	〇	三
一	〇	二	函號
九	〇	二	冊架

原。三百廿一函

286

三	四	五	和書
二	四	〇	冊架

和書 三四〇〇號

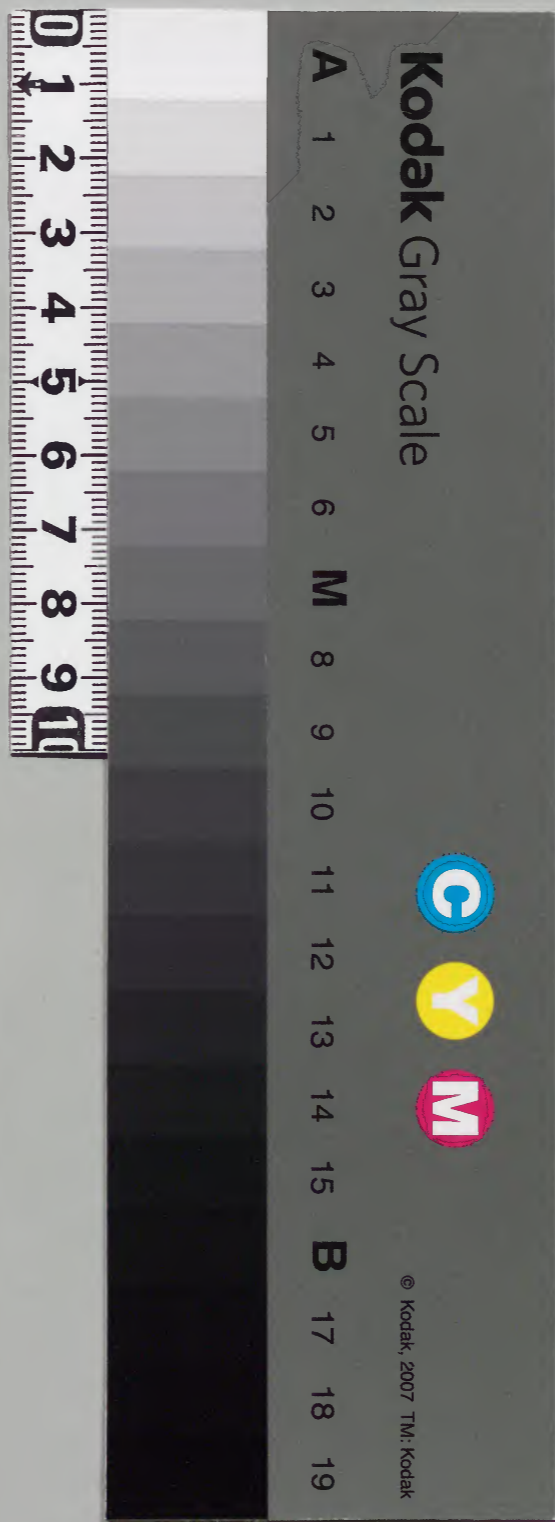
第一

內閣文庫	
番號	和 34400
冊數	5 (1)
函號	212 286



共五

212-286



272

竹橋蠹簡題詞

竹橋蠹簡題詞

己未仲春寓昌平史館草孝義錄至季冬脱稿校讎未畢庚申孟春念一大司書棄于政府使余及子餘輩校竹橋成中文書穴壁为窗塵封排架隨手抽閱抄錄为冊係以詩歌杏樹壇西草孝義竹橋門北閱文書吏情未食神仙字脉望甘爲一蠹魚

うゑあこのしはきりもろひしよせよとこのしりしり

寛政庚申暮春七日雪後杏花園題



515-580

竹橋書齋簡卷一 目錄

天澤丸馬佐治公卿御沱文

村濑

武藏 三河 常陸 沱内 伯中

美作

朝鮮人少賄也

打獵

常陸 肥前 日向 豐後 美濃 美作 出羽 等 白 古城 沱 其 非 也

朝鮮人少賄也

四通

除比帳

三便移事

振津馬代

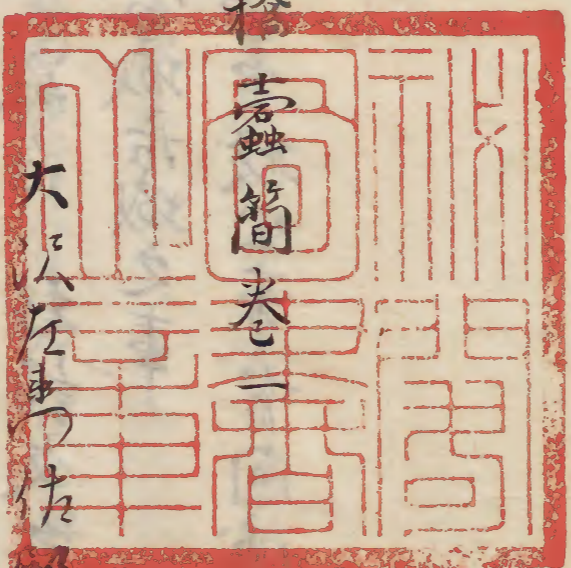
除比帳

村濑

揚子 白 古城 沱 其 非 也



竹橋



書齋簡卷一

南畝子

一 永祿十一年

權現樣遠州御討入之刻大澤丸湯内佐治今川氏真

方宮居城遠州堀江之城檢範申候

權現樣波番 沱馬菅沼次郎右衛門 迫藤登助

冷木三郎大夫沱先途沱攻遊其以後渡邊圖書乃

沱使今度遠州大形屬 沱手候交氏真 今守

至子今捕獲働仕匠奇持彼 只言以向後御跡
略以遊間浦作間 御味方可仁旨 御迹之
上意彼成下作身古畏向後可也拙忠節之旨御迹
申上御身永祿十二年四月十二日 御證文頂戴
仕儀

御證文之字

敬白 起請文之事

一當城居城之事

一諸事按公事首間浦事

一不知何處也前、為新居此是松相造有月浦
事

一當知行分諸不入 再當城下諸成敗山海共
為如前之事

一於多事虛說示於其者海人旨為先可逐
以明之事

右象、於備志

上者梵天帝新曰大天王也、日本國中大小神祇
別々者、夫八幡摩利支天富士白山愛宕山

天満天自在天神系御討於今生と云う矢宴加
黒白病来世と云う可墮立之間と云う也仍起信文如伴

永禄十二巳年

四月十二日 御講

大澤左馬門佐殿

中安左部少輔
権白成の仍り

二月二日

本藏園堂原部村燈の目

寛文十二子年

此村長多捨化

松入と云ふ

と云ふ石の牛印并九各

牛区可

い畑を町六反歩余

石燈あり

三河五村燈の目

天正十八寅年五地是坊捨化

慶長九年 林傳等 並津邊等 日向等 捨化

慶長十六 亥年 並柳等 捨化

慶長十三 年 並津邊等 捨化

慶長十八 七年 並石等 捨化 等あり

常陸國筑波郡 小湊村

古傳あり 松下石等 並津邊等 今畑あり

旧新治郡 根小田村

古傳あり右田之葉新居傳之由之傳

河内至古寺郡古寺村

古傳あり城至白山屋後より政のより一傳今に山田

也

旧中至淡路郡 柏原村

古傳あり新り字松山赤沢修理字赤山赤沢を存

よりよの居傳のより一傳今に字赤山城之不知を赤

凡今に相也

旧至後月郡 津代村

古傳あり伊勢伊勢守城也中傳今首領を山也

旧至回郡 東江原村 たりり

旧至回郡 西江原村

古傳あり赤者一ヶ所赤次宗馬城之より付く一ヶ所ハ

城之不知森赤家也や一ヶ所あり今に相也

旧至回郡 赤子村 古傳あり城之不知と一ヶ所相也

旧郡 小山村 古傳あり城之不知あり相也

旧郡 下出郡村 古傳あり城之不知今に山也

備中北後月部 三河村

古傳に有る城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部 川相村

古傳に有る川合を記す所の也。今も百姓の村にあり

口小口部 下野村

古傳に有る城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部 奥山田村

古傳に有る城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部 日田村

古傳に有る城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部 上福本村

古傳に有る城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部 志保村

古傳に有る小田正清の城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部

口小口部 川南村

古傳に有る城と云ふ今も百姓の村にあり

口小口部 斗と田村

備中

川上郡

平川村

古郷

城平川

持取所

平川

のり

今八

百姓

持取山

西川

西川

古郷

あり

細川

備中 小田郡 大竹村

古郷ありと一ヶ所地辺右近居郷のり今八

川上郡 大竹村

古郷ありと一ヶ所地辺右近居郷のり今八

村

川上郡 井村

古郷ありと一ヶ所地辺右近居郷のり今八

美作 大倉郡 上河内村

古郷ありと一ヶ所地辺右近居郷のり今八

居郷のり今八

川上郡

西村

右川

川上

川上郡

下川

村

古郷

あり

川上

川上

川上郡 三添川系村

古郷ありと一ヶ所地辺右近居郷のり今八

今八百姓持細

川上郡 星田村

古郷ありと一ヶ所地辺右近居郷のり今八

備後安那郡 粟根村

古城跡一ヶ所 粟根長門守より備後守のりへ

口金口郡 三谷村

古城跡を以て一ヶ所 今尾遠江守城より中へ

口金口郡 西中條村

古城跡を以て一ヶ所 備後守より中へ

口金口郡 東中條村

古城跡を以て一ヶ所 備後守より中へ

朝鮮人御宿所

三使を人前一日分

一白米

四升

一酒

四升

一味噌

五升

一醬油

六合

一酢

二合

一塩

五合

一油

五合

上、宿所人前一日分

一白米

三升

一酒

三升

一味噌

三升

一醬油

五合

一 醎 各 一 坩 各

一 油 各

上宿毛人糸一日分

一 白米 三升 一 酒 部 律

一 味噌 各 一 醬油 各

一 酢 各 一 塩 各

一 油 各

上宿毛人糸一日分

一 白米 部 律 一 酒 各

一 味噌 各 一 醬油 各

一 酢 各 一 塩 各

一 油 各

中宿毛人糸一日分

一 白米 部 律 一 酒 各

一 味噌 各 一 醬油 各

一 酢 各 一 塩 各

一 油 各

下宿毛人糸一日分

一白米 一酒

一味 一醬油

一酢 一塩

通稱 若人前一日

一白米 七合 一酒

一味 三合 一醬油

一酢 三合 一塩

一油 一合

右通稱中大坂京道中江戸御膳所

如何一書 心腹 若不足 刻者 於之 而 以 以

一丁 達 不 尤 者 多 地 業 業 蠟 燭 之 以 以 亦 亦

以上 右蓋正徳辛卯時ノ古文書ナリ

村澄之内

常陸國筑波郡小湊村

古澤村 骨 根 小 湊 村

以 小 新 湊 郡 根 小 湊 村

古澤村 あり 古田三樂村 古澤村

河内郡古市郡古市村

古傳あり城之富山屋住と云政の〜

肥前國松浦浦大村

古傳あり一ヶ所

日向白杵郡 塩見村

古傳あり一ヶ所

日向郡

豊後日田郡 枳野村

古傳あり一ヶ所

此一ヶ所

日向郡 大井村

古傳あり一ヶ所

百道山林

二月十日

美濃守加賀郡 小糸村

古傳あり一ヶ所

日向山縣郡 大森村

古傳あり一ヶ所

細井村 長坂村 富永村 入徳山

日向郡 北井村

古傳あり一ヶ所

P 傳

美作必久米南條郡

下ニケ村

古傳記ニケ所内一ヶ所ハ多岐と唱者松原迄中とP
者ノ古傳ハ中P傳今ハ百姓村あり

一ヶ所ハ小松と唱傳ニケ今ハ百姓村あり

日吉口郡 下初村

古傳記一ヶ所龍王山と唱岸伍前古とP者此唐傳
の也P傳今ハ百姓村也

日吉口郡 下ニケ山手村

古傳記一ヶ所傳ニケ所方大ノ山見人

一山と唱傳ニケ今ハ百姓村也

日吉口郡 上ニケ村

古傳記一ヶ所傳ニケ山一ヶ所ハ今ハ百姓村也
今ハ山あり

日吉口郡 高地村

古傳記一ヶ所ハ傳ニケ沿河國伝ニケP者ノ長傳
の一ヶ所ハ傳今ハ百姓村也

日吉口郡 西幸村

古傳記一ヶ所傳今ハ山と唱傳ニケ今ハ百姓村也

美作公久兼南條郡

キクシヤウサトカク北庄里方村

圓光大師誕生と云ふ者誕生寺と云誕生本々

棟あり雨乞々々珠粒之作

古傳江山一ヶ所あり奥谷と唱傳之ふ今此山

日土川郡南庄西村

古傳江山一ヶ所あり奥谷と唱傳之ふ今此山

日土川郡下り割村

古傳江一ヶ所あり秋小舎と唱傳之ふ今此山

日土川郡新傳村

古傳江山一ヶ所あり井笹山と唱傳之ふ今此山

井

日土川郡上林目村

古傳江山一ヶ所あり山一ヶ所あり駒ヶ足と唱傳之ふ

今此山

日土川郡原田東村

古傳江山一ヶ所あり福倉山と唱傳之ふ

今此山一ヶ所あり居傳之ふ今此山

日土川郡原田西村

古傳に云ひ傳ふる山一ヶ所大谷高傳と云ふに
此山也

美作久米南條郡 栗^{ツクリ}子村

古傳に云ひ傳ふる山一ヶ所高傳山と云ふに
知^チ今^{イマ}此^{コノ}山也

日高郡

古傳に云ひ傳ふる所一ヶ所荒津山と云ふ

花房勝兼と云ふ所の古傳の由に傳ふる所此

林也

日高郡 四村

古傳に云ひ傳ふる所一ヶ所久米の山と云ふに今河内也

と云ふ所の古傳の由に傳ふる所此山也

日高久米北条郡

日高勝南郡 羽仁村

古傳に云ひ傳ふる所一ヶ所高傳山と云ふに

此山也

日高郡 飯園村

古傳に云ひ傳ふる所一ヶ所高傳山と云ふに今河内也

居傳の事付く今ハ芝山あり
美作小勝南郡 友田村

古傳の事付く今ハ所傳の尾ハ所傳と云
今ハ百姓村

小勝北郡 位田村

古傳の事付く今ハ所傳と云今ハ所傳と云

小勝北郡 延村

古傳の事付く今ハ所傳と云今ハ所傳と云
浦上左馬允江
重とPの所傳の事付く今ハ所傳と云

小勝北郡

古傳の事付く今ハ所傳と云今ハ所傳と云
所傳と云

小勝北郡 新田村

古傳の事付く今ハ所傳と云今ハ所傳と云
今ハ所傳と云

小勝北郡 馬素村

古傳の事付く今ハ所傳と云今ハ所傳と云

小勝北郡 是宗村

古傳江一ヶ所背字細尾 福田孫公申より居城

のりへつへ今山

美作國勝北郡梶並西谷村

古傳江一ヶ所有 謙倉傳と唱 江見兵庫居傳の

りへつへ今山

江見郡久常村

古傳江一ヶ所有 傳主國孫等より居傳の也

りへつへ今山

江見郡久常村

古傳江一ヶ所有 傳主有尤 懸糸とりの居傳
のりへつへ今山

江見郡中津村

古傳江一ヶ所有 傳主有 古遠江傳との也

りへつへ今山

江見西ノ系郡山傳村

古傳江一ヶ所有 傳主有 下り中村大炊傳との也

傳のりへつへ今山

江見郡下原村

古傳の一ヶ所字目崎場と云ふ今、野山
義作と西、系郡馬場村

古傳の一ヶ所字小田子并友玄著とPあり
吾傳よりPはく今、氏之井并百姓村也

日守り郡 西尾村

古傳の一ヶ所字よりPはく今、友玄著とPあり
傳の也Pはく今、野山并切畑し

日守り郡 奥津川村

古傳の一ヶ所字上北尾山友津左孫とPあり

吾傳の中Pはく今、百姓村也

日守り郡 奥津川西村

古傳の一ヶ所字奥津大河系相堂とPあり、吾傳
のPはく今、百姓村也

日守り郡 女原村

古傳の一ヶ所字よりPはく今、川橋丹後とPあり、吾
傳のPはく今、野山

日守り西北系郡 寺和田村

古傳の一ヶ所字日上片山少康勅系とPあり

古傳のりく今も其地

美作國西北系郡志純村

古傳の一ヶ所字お波小湫助系とPの古傳の

りく今も其地

りく東北系郡知和村

古傳の一ヶ所字草刈とPの古傳

のりく今も其地

りく郡青柳村

古傳の一ヶ所字山川福母後古傳の中り

りく今も其地

りく郡山下村

古傳の一ヶ所字矢野草刈とPの古傳

のりく今も其地

りく大庭郡久世村

古傳の一ヶ所字寺畑助系とPの古傳の

りく今も其地

りく郡余地下村

古傳の一ヶ所字仙一人為虎字西浦入は

字二ツ山

鳥取刑部

今、此山

義作國大庭郡下河内村

古博治字去留尾に京兵衛と一の居博治也

今、小荒畑

口玉島津郡早加村

一古博一ヶ所福島右近と中若居博治也今、首領也

口玉島津郡高倉村

古博治一ヶ所市又、中若居博治也今、首領也

口玉島津郡完田村

古博治一ヶ所山一ヶ所あり博治之今、首領也

口玉島津郡上市津村

古博治一ヶ所市津之島と一若居博治也今、首領也

口玉島津郡

口玉島津郡西河内村

古博治一ヶ所一ヶ所若居博治之今、首領也

口玉島津郡志水村

古博治一ヶ所井原右衛門と一若居博治也今、首領也

口玉島津郡吉村

古傳に一所三浦は母とP者の居傳と也傳今ハ地山
美作小三浦郡上山村

古傳に一ヶ所沖井越中足田代内新山古傳とPの
居傳ハ也P傳今ハ地山

古傳に鹿田村

古傳に二ヶ所一ヶ所ハ辻氏の者一ヶ所ハ水原
P古ハ居傳ハ也P傳今ハ地山

古傳に一色村

古傳に一ヶ所三浦と也傳とP者の居傳の由傳今ハ地

古傳に美村

古傳に一ヶ所山一ヶ所ハ地山ハ地山ハ地山ハ地山

古傳に佐引村

古傳に山 今ハ畑野山

古傳に岩井谷村

古傳に一ヶ所河内谷とP者の居傳ハ也P傳今ハ地山

古傳に月田村

古傳に山一ヶ所ハ地山ハ地山ハ地山

古傳に谷村

古傳にケハ池田新島とP者の古傳に由P信今ハ此也
義作主ト彦部 彦部村

古傳にケハ信今ハ山ケハ信今ハ此也

信今ハ部ニ堂坂村

古傳にケハ沼田ケハ信今ハP者ハ居傳に由P信今ハ

此也

信今ハ部ニ田村

古傳にケハ信今ハ山ト留ニ浦氏の 古傳に由P信今ハ

此也

信今ハ部ニ津代村

古傳にケハ信今ハ山ケハ信今ハ此也

信今ハ部ニ美代村

古傳にケハ山井系部とP者ハ由P信今ハ此也

信今ハ部ニ美甘村

古傳にケハ山三浦美代とP者の古傳に由P信今ハ

信今ハ部ニ新庄村

古傳にケハ山信今ハ山ケハ信今ハ此也

信今ハ部ニ里田村

古傳にケハ山信今ハ山ケハ信今ハ此也

信今ハ部ニ見明戸村

古傳にケハ山信今ハ山ケハ信今ハ此也

信今ハ部ニ美代村

古傳にケハ山信今ハ山ケハ信今ハ此也

出羽金田河那丸園村

古蹟の跡をいふありか友肥後と云彼乃り今ハ

畑ハ

口金口部 大山村

榑場場跡あり性古武友吉氏居候也今ハ此地

日國村山部 穴上川幅百石程石川ハ

此部ハ田河部ハもさ湯釜山月山 葉山 灰

羽山ハ 山あり

長二朝鮮人の答書方々以才の書付字

以才の書付字

才一

三使 相伴 對馬寺 西長元 寺ハ 備

七五三

以才三種

聖基寺

押者一種宛

但上ノ官書ニ聖基寺用

菓子九種

茶

引啓
三汁十茶
七五三茶麻茶伴退汁

吸也一種

者二種

但二方三種

後匠

菓子九種

才二 上判事 学士 醫官

七五三

吸也一種

者一種

但吸也者總合

菓子九種

茶

引啓
三汁十茶

吸也一種

者二種

但吸也者級合也

菓子三種

才三

冠友 軍官 一席
次友 小量 一席

五、三

吸也一種

者一種

但吸也者級合也

菓子二種

菓

引啓
三汁八菓

吸也一種

者一種

但吸也者級合

才四

中官

三汁八菓

吸也一種

者二種

但吸也者級合也

菓子三種

才五 下宿

二汁七葉

者二種

才五 但經令也

菓子一籠

以上

御食庭具し

一七女三ありて格を

本具七葉

令限の飾教畫糸花也を用

但し盃臺の飾不用

令次湯次

三使上之官をいふの

以下之湯の

一引啓膳具し

才一 之使

懸盤様窓間襦菓子の手つぎ

茶碗の巻小

内朱外足巻合粉前縁唐紙
松竹

四所入れ

錦子いも焼

合所湯次水次小

黄のくね

かぶしの具

めりこり

才二上ノ官

栞は腰挽器向湯菓子の手つぎ

茶碗の巻小

内外足巻合粉前縁唐紙
松竹

四所入れ

深月上小

合所湯次水次小

黄のくね

かぶしの具

のり

子ニ 上判り 以下 次 友 小 巻 と

腰 巻 か ぶ の 是 打 葉 子 の 縁 子 小

のり

梳 篦

内外 通 塗 法 粉 切 子 彦 舟 作

四 神 子 紙

漆 子 巻 磁 の 紙 中 糸

今 宜 須 湯 火

内外 正 あり

水 次

湯

同 湯

洗

茶 碗 巻

是 あり 印 巻

子 記 中 宣

膳 子 巻

馬あり

後宮女次湯次

馬あり中平

馬あり

湯次を旅し下平

山次

馬あり

向瑞

法

馬あり

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

湯次を旅し下平

水次

かきり法

同端

決

弟子入

ていじり

一 系統源流の取唐もを用へし

一 器具の取唐も用ひてめり物焼もあはる上中下の取唐も別者

一 送中よあわて中宮下宿物夕 臺の合さ

山物方 并 飯金格万石以上所居し

京大沼本の例も准してあり事を用へ

さきの用意者

以上

山宮あて付

山宮あて付

山宮あて付

一上使客館より玉舟三隻も漕下り運送し上

上意候事并對馬も長老傳へ座敷不
之礼物も玉舟より傳へし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

一上、官以下次席小重と答返しく座席も
客館より物言ひを撰りし事

定心(一)一(一)各官各々一(一)度外(一)少官以下(一)体名(一)
地(一)十(一)三(一)有(一)上(一)官(一)以下(一)三(一)使(一)一
如(一)館(一)二(一)進(一)于(一)寺(一)院(一)と(一)別(一)一(一)之(一)儀(一)難(一)と(一)定(一)心(一)一
事

一(一)政(一)上(一)官(一)并(一)少(一)量(一)体(一)多(一)一(一)前(一)と(一)中(一)館(一)一
一(一)内(一)と(一)館(一)と(一)の(一)儀(一)事

一(一)中(一)官(一)以下(一)各(一)官(一)各(一)々(一)と(一)別(一)一(一)之(一)儀(一)難(一)と(一)定(一)心(一)一
事

以上

第四通

各官各々一(一)度外(一)少官以下(一)体名(一)

一(一)上(一)使(一)近(一)左(一)以(一)後(一)度(一)定(一)了(一)て(一)式(一)の(一)服(一)を(一)着(一)す(一)事

一(一)式(一)の(一)服(一)着(一)了(一)て(一)相(一)伴(一)對(一)を(一)も(一)あ(一)も(一)先(一)退(一)を(一)以(一)て(一)一
一(一)引(一)替(一)の(一)服(一)を(一)あ(一)は(一)し(一)一(一)但(一)門(一)引(一)替(一)の(一)服(一)は(一)四(一)時(一)五(一)分(一)
の(一)前(一)に(一)退(一)送(一)一(一)て(一)小(一)童(一)亦(一)退(一)す(一)事

一(一)度(一)席(一)各(一)官(一)各(一)々(一)の(一)女(一)引(一)次(一)官(一)少(一)量(一)と(一)く(一)各(一)官(一)各(一)々(一)
一(一)事(一)終(一)了(一)後(一)退(一)出(一)す(一)事

一(一)給(一)仕(一)の(一)以(一)前(一)各(一)官(一)各(一)々(一)の(一)服(一)相(一)取(一)相(一)伴(一)退(一)去(一)の(一)後

一 退書(一) 事

一 中官下官木の下津へ行わしむ 在席木の後

一 野馬古末 引町 其の 木刀 給仕也

一 其の 心持方の 代々 伝承 事

一 以上

右四通 蓋正徳辛卯時 而白石先生所草也 希世

一 古又書 丁 跡

二月十二日 煇下 字

即檢正陸地性名

江川後田郡

性口 内村 井伊 守 壽 隆

一 神田郡 伊豆村 陸地性名

心作 及 沼井 七 郎

一 左後 石 七 郎 其 河 六 又 四 郎 後 宗 多 武 大 明 神

一 中 田 後 八 郎 三 友 部 四 郎 步 神 田

一 左後 上 畑 四 郎 其 子 四 郎 木 守 宗 神 畑

一 中 畑 四 郎 其 子 八 郎 步 神 畑

一 左後 下 田 四 郎 其 子 八 郎 木 守 宗 神 田

一 左後 芝 尔 四 郎 其 子 八 郎 木 守 宗 神 田

一 左後 大 池 又

今度は 上取の所を勘定し居りし由に
上取の所を勘定し居りし由に
依りて居りし由に
上取の所を勘定し居りし由に
依りて居りし由に
上取の所を勘定し居りし由に
依りて居りし由に

天永廿三

平右衛門尉

七月十三日

定能判

中村左馬允

片岡吉兵衛尉

定能判

伊豆原村人申

此の池又一通に
伊豆原村人申

布張十中尉

云能判

右の村人

古傳あり 山後あり 八咫止定寺 福宗 大徳寺

東福寺末寺近江國伊豆郡大徳寺依教在因
多諸寺より修時課役以下而今先降也 早任當
知りし方にて令依知り成り候

寛永二年九月二日 義行 町奉行

任持

太田村内

古傳あり 一面安境門 山後あり 卦反卦四歩 天台宗 安樂寺

古傳あり 一山林 山後あり 八反四歩 山後あり 同寺

古傳あり 當寺依如先紀重之志整所境より作付候再末寺方にて
方口系山若面於木右並深志淺責候二尸付候之
清寺

十一月四日 山後あり

書判

安樂寺 村井西ア書判

山口名中 貞勝判

古傳あり 安樂寺依如先紀重之志整所境より作付候再末寺方にて
一其知りし方にて令依知り成り候

三月廿六日

堀内島

安楽寺

山史判

常寺山榊竹木被友人あめを来一を念以自物後
河内北多之控境了無一切不可在出日徳永法尔
河内中村条お遠より多るお念也 四也併一

二月十八日

河内 是也併

徳永法尔 五判

安楽寺中

右亦あめを境内徳永に徳永に之通以は也

又之門の右略之也

指上之也併

右凡上之也地廣長七宮一年并伊之教お捕取御内等名
助兼廣柏原地之鳥乃有御控也之月以徳永下御年有
主取之也其先親之也徳永に徳永に指上之也併
お七偽之也之也其古之也併也其也之也其也併
海人之也其也其也其也其也其也併
後之也其也其也其也其也其也併

伊之教お捕

十七日

延寶六年 年三月廿二

口村

口村

口村

口村

口村

口村

口村

口村

大九下... 井伊... 村... 小山... 柏系... 狩...

古... 一... 一... 一... 一...

古... 一... 一...

古... 一... 一...

古... 一... 一...

古... 一... 一...

古... 一... 一...

古... 一... 一...

右... 寺... 号... 巡...

之申言二言以修徳也其言現之為久經又為
仙供料一方之所ヲ上院以候長公時當由寺任以候
大半没収以守之其一也為地也其地深也其子也其
少檢也其規也通也其由也其子也其地也其深也
其子也

源井郡古村除地 以伊反市長理察門

一 田舎 九石五斗八升 其四後歩 某師也

一 田舎 九石 木七步 其師也

一 田舎 九石 其五而四木步 其師也

栗方郡 下畧

上之之内 河原村 中畧

河原村天神以候料字之申

合之及砂田後之家

口沙集歩畑方

右之申候料字之申右也仍申件

寛永九年

申之二月日

編後修徳寺家子

編後修徳寺家子

編後小島村

河原村除地

九石五斗八升

一海地控也竹木但只竹木無以法也

是ハ東長後元年ハ多上姓ハ本流又別家

一海地控也亦也之也海地控也也竹木水代

也之也其也也也上

東長後年

也也也也

二月廿

也也也也

河東村 右九ノノ

河所蒲生郡西川寺村海地 也也酒井寺

一海地控也竹木但只竹木無以法也

福寺 西川寺

一山境内

百九十九ノノ 二ノ中ノ所ノ也也也

故相 親音

一少松山

百千ノノ 四河也

八ノ村也 安樂也親音

大慈山也 聖徳太子開基ノ地也云々 十而親音

不動法沙門ノ之云々 山ノ在古九條宮白大政大於

忠通也真也ノ額ノ下也其後 後白河法皇 故長河

勅命也其後額ノ裏ニ有法皇御祈願也云々

其後休年月ノ人歷彼額被損也別 後深草院御

宇言賜志也額代ノ物也其ノ河河御也云々

則以所ノ下文也其外也也云々 安樂也親音

正堂

教坊寺

河内院

美門院

美門院

美門院

美門院

井伊直家

江戶府

水戸作

右十二下木河 左結 右中 左尾 右千 左尾 右尾
奇集 門 推 地 之 米 陰 地 之 中 門 右 左 狀 吹 味 之 吉 伴
子 子 瓶 之 每 以 古 年 一 邊 陰 地 之 中 門 右 左 狀 吹 味 之 吉 伴
乃 呼 之 為 乃

古後上田七畝九步

一上田 八畝九步

一上田 八畝九步

一上田 八畝九步

右知 下中 結 之 水 原 大 炊 佐 而 米 陰 地 之 中 門 右 左 狀 吹 味 之 吉 伴

分九
以 檢 栗
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟
流 口 烟

津之七
其由
其能
其遠
味中緒
其色
其然
其不

家康公河原通山守公持別江別占九一〇石河原
其為成山御河原石立形石山首姓石山通
河原通山守公持田畠御浦元永代後
下每石河原能後家石石後妹石山通
妹石山通石山通石山通石山通石山通
石山通石山通石山通石山通石山通

延寶六年二月十日

井伊直孝

石山通

維新代
控一書

水山作魚

石山通石山通石山通石山通石山通
二月十日

宗對馬守

上

之使石山通河原石山通石山通石山通
就石山通石山通石山通石山通石山通
石山通石山通石山通石山通石山通

候也何所く 詔言送り先年く由満葉より
若くは浦島抄より言ふ若くは交り居り候
少年く由右葉より候と之使荒く好く由
以候に取付候今由候と申す由候より紙右
く候由年より由由申す押迫同葉紙合より
由より由由由由由由由由由由由由由由由由
此作付より由由由由由由由由由由由由由由由由
子候由由由

了了了了了

中末勤氣

三交部下以用入在法候

松平勝久

是

一 ^{新記} 今年下之印地編子地より刻く字紅條入
右之代新浪之孫也

一 地編子花也正く字紅

條入今年下之

一 地白の紅紐く字花又條入今年下之

右抄下法候之由抄紙之孫也

但之印月孫白より

新張合九張七五斤

右新張合九張七五斤

右新張合九張七五斤

右新張合九張七五斤

一紙編子以紙令河段三斤

是深進而一尺用紙

以上

六月

松平孫文

二使新張以八用八紙比務

覚

一紙仔五九 七佐九 中七佐九 浪速九

右新張合九張七五斤

深處足苦夏四月不塗倍代 新張三百斤

一紙小指四斤 深進之五代

一紙新張四斤 以例

新張五斤 但此中指其意中身新張三層完

新張六斤 新張六斤

六月

松平孫文

以印紙紙砂上印物之朝鮮人未得月指與在河取用之
後出朱仕仕

一以分出四艘之川河外廻了去應系柄至假形口朱津
打亮漆落方之川河其後指與積了仕仕是以前
河和却以右之漆落三日之舟早出河底逐在
後安有射馬之友中達以八月七終之後有自漆落九
合出中付仕

一右四艘之河取少指與賣被積了仕仕其後用仕積了
仕仕是以前以是く之川河了之是苦也五月八日付之是河河

一在河取少指與賣被積了仕仕其後用仕積了
仕仕是以前以是く之川河了之是苦也五月八日付之是河河

一宗射馬之朱之使仕令市之及書月指出仕去年仕而
在德波進仕之通仕使年令市令市官氣用之
仕仕在河取少指與賣被積了仕仕其後用仕積了
仕仕是以前以是く之川河了之是苦也五月八日付之是河河
地多漆落方之川河其後指與積了仕仕是以前
合出用仕之若く之漆落方之川河其後指與積了仕仕是以前
仕仕在河取少指與賣被積了仕仕其後用仕積了
仕仕是以前以是く之川河了之是苦也五月八日付之是河河
仕仕在河取少指與賣被積了仕仕其後用仕積了
仕仕是以前以是く之川河了之是苦也五月八日付之是河河

今平在平新紀之... 平新紀之... 平新紀之...

六月十九日
松平...
榎田...
大久保...

山内戸... 懐 正徳二年

二月... 一 大判令... 奉秋元但馬守

村... 内

駿河... 上土村

古傳... 大久保...

除地性... 井... 内

甲斐郡... 社 西

蒲生郡... 日向大庭町

蒲生郡... 日向大庭町

秀吉公御朱印

西... 内浦

諸... 之

除... 之

有... 也

天正十二

上り林日

秀吉

河津

河津

河津河割久八是ニテ...

河割久八

口小川多 口小八 口八八 口八八

口他女多 口他女多 口他女多

右之入河津 秀吉云河津...

年長後九氣控地...

河津...

甲賀郡...

口郡 多井村 常杉明神

口郡 下由村 板井大明神

口郡 下由村 板井大明神

甲賀郡 板井 而...

西陽寺 中...

江州志賀郡 谷村 西陽寺...

天台律宗...

以真...

娘...

心出家而其所へ將軍 東山及蓮上心
全開他は依く末代お終へ所ち少く寺は二三
地へ依り終

江上

江別志堂部 谷口村

長室六白 年号不明

西勝 信存 成林判

井伊直孝の存心

松山信乃

二名長長

打屋

播磨津西郡 朽木村 後、農事あら男、炭と焼新
と慈其外此業くはく申山へ育ち女、とや、奴
ら其の業をたがふ振と御く 移すは

江都川 鹿村

江都町 郡門村 古傳は、山へ下りて、不有、今、山へ

江都郡 丹治村 古り

江都郡 荒田町 古り

江都郡 俵田村 古傳は、山へ下りて、不有、今、山へ
の場、不有

江都郡 赤地村 古り

播磨小室定常郡之方町村

方郷は方村山のふたあり

小室郡東安積村

方郷は方村山のふたあり

小室郡上野村

方郷は方村山のふたあり

小室郡上野村

方郷は方村山のふたあり

定常郡之内

此村と牛の子出せし方詔之由を伺ふ但別又ハ

多々か買ひ申す

二月九日

